

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

武家子集

全
二
三

7



9130



43.10.18
不付欠一殿寄贈

葎居集中巻

戀之部

戀

うつせりのぬりほろのちちりきん申さぬ人をねむる恋
いのちその琴の糸もぬてり君よりひうれて世をほろへく
つれねさふら恥のきこゑをてためておせたる世もさうか
たまひん恋ふもぬりてりたにきらねてぬんあまをむむらん
ほろふうつてぬるよん曉ハ空すまおをかつくよたらさりうて
いつたるもの人すくりよとねらはいさ流とんに信んしんせは
たまきぬのつらちのきと袖をたつうのとたよりや恋のそり先放らん

初戀



忍意

慈すれにたすけたまふと父たの目をそめてすむる忍びくも
人先なる方いづれこのうれうきあまふとうきりうたは
控はまゝあそべんぬのうきあふいとちきまて世をうらみ
祢それーくみのほつれをさうしてこそぬ人のんぢうり
山うり門田うりうりうまねを引てこそみえぬるうぢうり
たつ波のたしきんくんあうりそのおぢのうきあそつて
うらみうらみおぢのきんやうてこそあそびあておぢのうら
うちうらみおぢのきんやうてこそあそびあておぢのうら
申さすうの舟のたうらふおぢのきんやうてこそあそびあ
人目おぢのおぢのうらみくもあそびあておぢのうら

忍世意

逢不意

試意

聞意

見意

行路見意

僅見意

通書意

祈難逢意

祈後世意

誓意

契意

契久意

契不逢意

馴意

馴不言意

はうらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈はうら
うらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈はうら
妹とま中のちきりうらうらたひひるまうほとあらふ今
ちきりこのちきりうらうらたひひるまうほとあらふ今
うらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈はうら
玉のをのうらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈
椀麻のをのうらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈
おはうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈はうら
年月成やうきあそびのうらうらたひひるまうほとあらふ
さうらうらたひひるまうほとあらふ今ふうて祈はうら

難馴意

疑意

疑真偽意

疑行未意

被疑意

互疑意

詞和不逢意

不来意

訪不意意

待意

忍待意

連夜待意

寐待意

月前待意

兩夜待意

待期意

別意

ち比くよきおの麻衣なるとすれね方おくき多又すよ
 山うらつきまをゆるれとけりてそのねまはまさらぬますよ
 うたふいへのあめのほのをれてとらや意の城なるらん
 系ねらぬ人よ枝やうをいらんこのてうそのあさねりて
 春くれたれとねの目よほれよとけくのやうとふくろくね
 けりすうふ控たそちておをのこねんちむらんいらとそしこ
 りらふねひらとまのさうをさうせめやらん後そあやあま
 けきりのくまふそきたれあうをねひけやすふん風と吹あひ
 二にてねらぬをいりてとらやとにうなひんせん
 系んさにはしらねかのうらなれや人ふつられて多ひくよ

あうらうてゆめをいりてりよとまてまてとねやとねぬ
 待ねんらんかの一人様てあうらん人をりてとやう
 とたれつるねあありとそらめれた待習るんわひつたぬん
 ねのうをさうて待ねはあてねるせぬ人をさうううぬ
 寂夜をん待ちらひてらくいふん松の風うねおらうきハセす
 つまぢんらんこのあてねるさううね財さるやてんうね
 こさうふ文て人を待らひのあふゆりの月のうけうね
 とをねとねらひいれ待うめてぬのあるねをねふさひき
 ちんたし此道のむらきた二系うりいらふ出さへ時をさうて
 ちんたしちかひつるまぬくの袖のやうそらとていことなる

- 別帰意
- 非心離意
- 連夜通意
- 名立意
- 無名立意
- 白地意
- 顕意
- 所顕意

まゝ寝つゝ袖をわらうと時と見らうきぬく一ふちうあつちのこ
 あつちうふらぬくよりの衣をぬかひつたききぬくの袖
 きぬくのよのたうらうらうらひうきぬくさうさすれ
 あつてこそといつたおのをぬれてはなれ形とらうさう
 らひくふぬれて通へいひくさぬたのちやぬせさう
 ちうすやうきさるやたんちうさなりあつちのこ有る世に
 行貝のえぬきさすをはあつちのちのちうふ人のりう
 むつまうとらうたさうぬたうけをさふさめつらう人さ
 春のさふあつちすれとき一の尾をうしうぬたさあつちうぬ
 さきさるへりたえふさるをぬれぬえとさううふてさるさじ

- 将顕意
- 増意
- 厭人目意
- 厭雨意
- 被厭意
- 悔意
- 寔意

けふうきさるちうせはちさふまのひてまをさきぬぬぬ
 ちうぬいろふ出たをいせん杖のうまのさうとらうとら
 妹のさる衣のさるのあをくひぬぬれにきふまうてさるさ
 わらうらうあらせんぬぬせの中のをさふ人のをさうたうひハ
 ぬうらひぬぬぬちのぬまうてさのくささう一畔やたえあ
 ちをうらぬおち人のさうう人ほきさぬひをさるいハ人信
 大うさふけあ一ぬのをいつさうとさらぬぬさうさうらうし
 俗をくいのりくさうらぬせて人あうらぬ世をさうらう
 妹とぬむすひ一草をさらたあつち人ぬさうれてうらさくぬ
 ちううゆへ人のらうらうさせん神のたぬりさるぬ
 一

驚意

被妨意

親小妨らる

被騷意

遠意

隔遠路意

占意

思

思和意

思高意

をむの跡はこゝろをすそ村小足ぬらさるゝをすゝるうね

をこほくいひくそゝまのあをさくねるやんこゝろゝをむらん

こらち移の母まつむていひせんおのけのまよと家こつゝより

あまよせぬ冬のうりふさわうれて人めんこむつりのせや

久々の天のをめぬぬてうねきてををりんをきくこゝろ

こらちを君をねりかゝるのうたはきこあん限りりらうゆ

玉ほそのるふねよをうとくすゝををゝゝとらよぬいひつぎぬ

意すれいれゝもよつけゝもよつけなひいたえぬせぬえ有え

いそれたきこやに心をむきかかめとらて移ちうん枕うちうて

こらちのうへに申うゝもむゝのゆふあたれてうりよな風

思旧意

思異人意

思二人意

被忘意

恨意

不絶意

将絶意

迷意

限一夜意

そと家むすあき初ゝくんちをこゝろのふにきうれやせゝ

はとをふなれぬゝまのうん味うたゝあひくそま申のねなきあやし

武があまこりけてあねとやゝあふあんだ申めゝゝむとあふ

わすれぬあふあまのなゝとまきくゝこそのかつらあねたうよ

はれてたををぬとてゝおをとつれあき人の前とてゝする

今志りゝあふああらうて今もああうん人のうらりゝきか

ぬれくて今を嫌と名うらうゝにをあん後そぬゝゝ

うたをらゝとらゝのえをゝゆふたのゝゝぬたきねんとするん

玉あその及びうらそまあすゝたやゝいぢんをやぬらん

えよとらよほくみああらぬうらう香をぬんハぬの形えこゝろ

闇夜意

雉面意

不年是非意

虚成实意

实成虚意

遊里意

幼意

老意

くそ玉のやうの虫たれうのやもふらやうくくちうらむ
 ちうふふみえぬらうらめき虫の夜をうらみく
 うらめといはくや人の絶ちのうらみはくつれふうらまし
 まくくたぬめくまじくうらめあらぬあまけをゆるう合つ
 びうさす虫のまくくたれすねはらうらうらちにぬのまうらむ
 ぐうらまのうらめくうらめ川うけの舟のうきたれまじ
 ふらうらめゆのほれふさをたれてぬふたあまをすうらめ
 おのほふをくこ女のぬらうらみをみうらむまじりまふらう
 せんべうらあまをうらうらまよりあまの意のたうら
 うつせこの人のよふうらまうらまうらまうらまうらま

老後意

歎老意

歎身意

立春意

春意

首夏意

やせさささ意のうらめをてそくたれひまらせん人のけりま
 毛をうらまをくまねる本の枝は春のうらうらの花をわすれぬ
 うらめまをてせふうらまうらまうらまうらまうらま
 花すきまなけはねひく世の中にまのうらめねるまをぬ
 はれあまはておのまうらまうらまうらまうらまうらま
 かりうき意の色うらまうらまうらまうらまうらま
 人の方のいつふらうらまうらまうらまうらまうらま
 春やれは野のまふちうらまうらまうらまうらま
 まうらま人のうらめうらまうらまうらまうらま
 ねふらうらまの夜のまをくうらまうらまうらまうらま

夏意

あつこふあつこふの夏をよつたりとあつこふ
 時多弁のふくまのーのひねり人目人こころさそつら
 妹とまほほしく福をきけハあハあつらうー人のあす
 ちさく夏の暑さハ夕つる袖のうさひすしくさ
 あつらうーあつらうのうーうよハあつらうーあつらう
 夏のあつらうのあつらうに涼うーてあつらう人そあつらう
 夕つらハをきめつら風さきのあつらう耳まハあつらう
 大つらハのあつらうれつらつとつら人のあつらう
 杖のうらハ何のあつらうのつらあつらう人のつらあつらう
 一人あつらうあつらう杖のあつらうをみーくあつらうあつらう

初秋意

秋意

秋夜意

月前意

暮秋意

冬意

冬夜意

寒夜通意

まきまさら風さそつらあつらうのつらあつらう
 さつらうーつらうさ林とあつらう人つらあつらう
 杖ハあつらうのつらあつらうとつらあつらう
 とつらあつらうとつらあつらうのつらあつらう
 月影のつらあつらうつらあつらうのつらあつらう
 大つらハのつらあつらうとつらあつらう
 冬つらあつらうのつらあつらうつらあつらう
 つらあつらうのつらあつらうのつらあつらう
 今つらあつらうのつらあつらうつらあつらう
 妹つらあつらうのつらあつらうつらあつらう

雪中意

歳暮意

對星意人

意命

意心

意思

意憂喜

意道

意淚

意色

是あまきりゆのちきふいつらうのしあひてらまねちん人のたえん
 今たみあふさきまのまこいひつをあいらつふうとあれやせん
 月あふのあふふはらう一意すれはたりふとちとほそ親しき
 のそらうの後のうさせきをきらぬあふのあひてあえあてまじ
 りつこまてまうまのうらなをえあくけり又あうぬあひのんハ
 あこまぬとよ火の玉のらをむらんとほすまをををらう知れん
 うねとんう一とんあをたあ申やあまのれりふあらん
 よきとせとらりすねうらう初あ人あうりのあひのたのあ
 夜終神のあうこはれとんほうううてそあいうねしき
 多うらよあの形ハええとんれらあ一めいらうふあふらり

意香

意夢

意衣

意枕

意夜

嬌といひますたれひとあかうにをやうあう一さの色をさすらん
 けそらハ色にのみあふとまやらん意ハあううふあむとそまけ
 きううしおのあめう一こそて移りうそてう一なるうね
 けあわるあまのう一こよあふたよせあてををれて嬌いん
 秘られねハあそそあ入み一うのふ二人あはれハあをさふこ一
 着ふこふのあまはさあはあうくふうぬをのうこふあううらむ
 うりそあふ枕うをすそとみ一あめつらふうつとあふらうあ
 うとあめてさすああてせあてけはけの枕よあををさるあ
 ううらうをさそてう一これハあまううあふああうらあえあ
 さいとあへんあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

意鐘

意竹

意糸

意妬

意人事

意黒髪

意重荷

意盗人

意不分人

まことまらねとらうきれつね々のういふあひハをせさうらそ

おのあらしの草のあらしのさるめりのたけをさすれと

片いのういれくそまぬふよりあふよりあらしのそあらん

目ふそえぬ人のあやまきまのうそんのたよのつめたひらよ

あちきちのくさみちをさるおのりのくさのく先にいん今令ん

かひあらて女の家のおあくらまにちうひふきこらんまごのこ

いつまごを逢を路うふたひゆらんさるのまごあのかうこのせや

あよびにつまき名をたひぬるやあの手まあめこつけぬん

ねとゆゑ罪ハのうねいそまごのあやうあうととうたられてん

うこちをさうくうあねとまらねのふくらハ詩ふたくらん

男色

尼をうよ

人の子をうよ

狂女をうよ

病人をうよ

罪人をうよ

乞児をうよ

をうねのうてまあちうりしきまのふんきまはすのい

そまごまご何うははこはこねのわごこちうこまねやせん

はねてあひりてやまご何あけよをうこはるあまの拾母

世をうろのあまうてあまら悪あまをたひひさうてハなれやせぬ

おちうらそそのおまぶりの山れそのトクけハうらあやハあぬ

うつちまご人たかひをうらうようまご人あふくまひうね

たをちめめちあめゆりうにまま申をひそらうふあまうんをまよ

天は罪をうらはあふたよひをまごうらそくおあまう人まじ

おろくのいずのちまごのうたひをハ歌うよう人の心をそらく

ねえんハねえらああをうよ被ハ川まごてあ申む仔細の神心

せうりや妊娠のころは

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

せうりや夕落のころは

あまらうきやうあわれは法華のいさよとてさよとらふせ

せうりや情死のころは

あはれふらぎをせめて牛川のまづきんこととほゆらくに

せうり死人とす

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまらうきやうあわれは法華のいさよとてさよとらふせ

せうり

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

たぬひ

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

たぬひ

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

ひらう

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

ひらう

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

うらう

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまた

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまた

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまた

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまた

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

あまた

うつくしいあはれをやはらぐにむすぶ牛とぬき

吾妻
人妻

知らぬちきりや

たぬひのそとぞ

くたくたぬひの

くらさきんせんま

あゝさうらなみのにしまさきんせんまのうらなみへうらぬ世に
人はあふむかうちひされね後さのええにまらふせし
まみのにせすねのちかしのまきし海のしやうとくまのまらむ

うへさうりぬひのあてせの人のきらぬあうをぬすよりぬ

たのきつさきゆうふ平をたねちわれにまきさうとくまのまらむ

むすひつふらういふのきんたくなぬひのまきし

われはさうらなみせん達さうまきし今も詩うるよおえ

うきりや

思つてぬひのうきのためうらぬわが身をわらうた

ちかきんせんま

つれなきはちかきんせんまにうまされてらるのきん袖をぬら

あゝ女のこころ

まきねきんせんまにうまらぬわが身をわらうた

あゝ女のこころおきんせんまにうまらぬわが身をわらうた

あゝ女のこころおきんせんまにうまらぬわが身をわらうた

まきねきんせんまにうまらぬわが身をわらうた

ふらふらとさくらうめつ春の空にきこゆ花又妻ごんをうして
らしてわけてせふはうらひにさくられらちとあつらたふにふはのあは
あつらふは時におよぶふらむしつらひのいこふよけりてあつら
時におよぶらむをいふらふは除きぬの袖さうてりてあつらふは
風うらとあふらにちね秋のきか人のさくらにさくらあやふき
うさくらにさくら花うらむらあつらあつらて一人あつらうと
あつらふはけちのふはむらてとあつらうらあつらあつらあつら
たのふはあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

寄川意

川のせきぎは上へ流すまゝたぐへんがせう。
松川のうへにゆりてそらんてえんふかぢる
ふちうらにたぢまやせまのあちまうくぢの
味うらにぢらうのりせせなうらこめうら
あつらうつせなうれとせ中のはめらぬ
をうらうらわらにぢひはせうらつふあ
山ゆうひくやぢらうのうらりせうら
たのつうら花ふらぬぬあ人のあま
人にたつれまきとゆ山うらぬら
まあをらぬぬあふのうらうらうらうら
うらうらの袖をうらにまうら
ありしよの袖のうらうらうら
あまはらぬぬあふのうらうら
すうらうら春の柳のうらうら
あまはらぬぬあふのうらうら
むつらうらぬの日のうらうら
たうらうらぬのうらうら
山ゆふ冬まうらぬのうらうら
ふちうらうらぬのうらうら
人にあまあふのうらうら

寄水意

寄清水意

寄井筒意

寄木意

寄花意

寄梅意

寄柳意

寄梨意

寄松意

寄木実意

寄竹意

川のせきぎは上へ流すまゝたぐへんがせう。
松川のうへにゆりてそらんてえんふかぢる
ふちうらにたぢまやせまのあちまうくぢの
味うらにぢらうのりせせなうらこめうら
あつらうつせなうれとせ中のはめらぬ
をうらうらわらにぢひはせうらつふあ
山ゆうひくやぢらうのうらりせうら
たのつうら花ふらぬぬあ人のあま
人にたつれまきとゆ山うらぬら
まあをらぬぬあふのうらうらうらうら
うらうらの袖をうらにまうら
ありしよの袖のうらうらうら
あまはらぬぬあふのうらうら
すうらうら春の柳のうらうら
あまはらぬぬあふのうらうら
むつらうらぬの日のうらうら
たうらうらぬのうらうら
山ゆふ冬まうらぬのうらうら
ふちうらうらぬのうらうら
人にあまあふのうらうら

寄草意

竹ちのらよのうらゝのうさぬうてうさうしおをうつゝの福さ
 りつものうらうらぬてこ冬さきと花んさきあんのきんをてぬて
 らえ初てやけれとちうらたりよちありのひよきた風やたてぬ
 きこらひぬひこらひ草のちにあうてうもつみよりのまき
 ちらひぬとさわさきと草ちらひぬのちのちふけたる
 こちののあゝらうちかちあふぬれ風えあひく草のんた
 花んさきまゆらうらふぬえぬらうちかんのたあめり草
 ねぬらひぬさきとあうてむちあめりきふぬちれまうら
 思つて日やけのち花の尾よ人をあふの草にたひたり
 こうれつちうてこわうや日あちちさふうちあちのあふひ

寄草慕意

寄忍草意

寄山吹意

寄夏草意

わきんてふゆるてよ花の山吹は何れうくのたひひあふて
 むりより夏花のさあふたうらんふんていさくこそちたし
 人といふの草とていさくせんうらうらふいさきませ思ひくに

寄萩意

寄女郎花意

寄蒿意

寄菅意

寄藻意

寄貝意

よんくふねてや風よさわうれてあはねられぬ萩のやをき
 たをらやまんと昔ハをこと山吹ののれをををへをい
 ちやうよりさきちうたらの草のちのさきと人ぬつませさほし
 信つておちをさうふすけうさあむおせううたふ色はまうら
 ねぬと人へ一あふぬあふたのさきとさきをのこさきとさき
 らうらんと人のらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 我妹よと今時のさぬのよ安貝ぬのよあふくうらうら捨りん

寄鳥意

人ならぬよき春の意あけりしききとてやまきりぬらん
きぬのなきもなきらあへりふさむきさうしてさあへら
春きぬをぞをぞあはれん人の花とあせり
たわうね人よさるおおけとひとたぬとなくやひる
方をうてたむにつら春のうそむきをこすつふさ
こころた人をうてて人まていあねまはけり門こく
秋の秋の野のまをのけすまをまねおをぬのうと
はらさるまふの地のあさるのこつねらて人を福たまん
あるふのうにえけりてよむむあこりつね徳まつり
人目ぬはらむさくさくやましせふさくうぬさけぬ

寄鶯意

寄呼子鳥意

寄帰雁意

寄水鶉意

寄鴉意

寄水鳥意

寄鳥歎意

寄虫意

寄夏虫意

寄蟬意

寄魚意

寄寺意

寄庭意

意はらふ人のさう野のきりのま麻のちくきをひゆんてん
ふとあをほらちやせんきぬりぬらさうととて麻人難
たよとわあをたやきさうとすぬくの神おまてあらん
さよふあは涼しおねらてひんたよきよのあいのね
むいぬんよとせせさうねり人につれあまお福の抱を
ちんこらこころに交まのせんらんたあをうりら
意すれいさよをせすい言くのわらうとらうの友復いせん
たそろきとていさうて静のこのはりのあまのよまのよ
まうらぬ山寺人のうれたまに福をたをさうあうまのう
あくのをのよとさう静とてあつれいさうあまのうりら

寄掃意

寄涙意

寄夜意

人よりのあまのねらりや山つたふゆりてぬてさくれさすれ
 月夜そそくちうほまの款きりやこは涙を何ふまう人
 あさうらぬんたあしりうそらん袖をうきよてぬよりたらね
 友のよれ人ほてこそあつらねとうきたよる夜にうこらぬくに
 けうらのあつき心のまねれうよるやあまのみのとて
 うきよきまの冬の夜のあはれをういぬをうういとなれやせん
 ねりうたれつたさうまのひ眼のをこの夜のうきまきさあや城
 しらうらへ草のむすひを長き世成にけにうらうめさうらうせむ
 まうらて妹とえうをむすひめのたひのたれを人よらそわ
 へたうらうかろのうたれぬめううこの後にあひすんかあらぬ

寄帯意

寄蚊帳意

寄倭文布意

寄物音意

寄扇意

寄太刀意

寄弓意

寄弓弦意

寄矢意

寄火術意

きうねくあつぬのそそのひそちきうらうとてたふ人にいそれ
 友のよれ人目うきうたうの敷のひのたまきぬうきううつ
 わきんてうたひの志つたてたよいのうきたよていとたをねやせん
 笛あらに妹うけうくさうのまのむらまきと悲をうらうわすれん
 秋風の人のふさうらうよりわれぬあまきの捨られよらう
 ねつうや八つめのうきまのうたれたぬひうらうらねうらうはし
 おとあらうつうらうまのゆらうまのうらうらうていふりうていふりま
 たぬん人のうらうさゆらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 あらうらうらうらうのねうらうらうらうらうらうらうらうらう
 火をさせはさうらうの年をふわわてうらうらうおをうらうらう

寄笠意

よあむちはさる菅さきりらふ人よまらねんばふふ若き

寄船意

今更よあぬのーほ舟旅られてさふくちまきよるちよのこや

寄皮意

ちねふらのばをさふねてーうねさふらのやうれさるる

寄繪意

あふれあて紙除ふまこりんさうのふねさるる中うね

寄薪意

山うけの人とすまめぬくぬきたふ薪とぬてさふゆ申てー

寄酒意

ほらふのたらんやこさうらてさるる意あふ人さるるよあや

寄餅意

春ゆくむつうの申さねりきさゆらふさうふうをちあらて

意のちらら成古き東哥ふちうらて

小田うんせいのり牛さるるまらり口んびてのせうのお

女うららてよさるる歌うん

意

たらちぬのおやとくのむすひつゝえさーをらうお母のすこらん

さきめりんに人をさるるはぬさーまのちいおんのおなひうね

ねんおさふおほなめさうとさるて意のうまのいおはしえりり

ねふれてさううーうりし時よりさ意てよりのいさるうをえにさる

ちきりーんさむさうにねうーわいーとたりよ新松うね

君のさよわきさるるあさひつゝわらいらさるるさるるさるる

日くれさばうさるる人にねむのその志をさるるはて君さるるさるる

あーひさの山のまらさるるさるるさるるさるるさるるさるる

新うらちうさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

侍うらー門の車のすまめねんたくねさるるさるるさるるさるる

難離意

来不留意

恨鳥意

後朝意

悔意

歿行未意

恥身意

意妬

寄月意

寄槿意

寄野意

寄糸意

わがまはくたむをちうらしてさるふたのあはれをまらうらうら

ちいりあひてあしたをまきたすけの袖あまねるまをひか

くやうんわらうれんそちうちうられんちうつうめをひたうら

女席をひりあまをそとそとまぬふたうのうこまねやん

原ふ本はうらあまうたひますまのそゆきうめうらめはて

つれんちまをいづのけすのうらうりのちハ神のまふく

あつたはあいらんうらうらうらきよき月夜ふそつまのさぬ

よせうらうそつ車にまうりりてまひてんかまよあうたのふ

いはやその神辺のくさりのもろむまてぬひまぬくそそつ先申

をそめうぬひのまよたぬまのねんそおのをまよてうらハ

寄雨意

寄靴意

とらうくむねを

いほのうやちのうのゆきをたれすうらうらうらをこせせこや

らうらうらうら

たれまをまらうらうらうらあまの人の目のなとねんハまうら

まてうらうら

人このまらまをたれまをまらうらうらうらうらうらうらうら

雑之部

日

夕日としておのそふあきらねとむらふハ似るへくみち

日蝕

日の神れををのそとて月よあハ時やハまんあのかくに

月蝕

あきらうふまをまつ月の影ハくらくあをを申とらふん

彗星

ちきとよほれまねハ出るよのうまをき拂ふまよそ有らじ

嵐

位者の浪のまをそ吹吹あれてむこふたろくまうすむちうり

夜嵐

ぬるうりてあやとあまくとさうりた人ねとらうすまよほら

行路嵐

ろりハ神ふたぬりて人の身ふたちろくさうり吹あらうり

煙

あれある浦の心平の夕うねとらうたつる煙あらねと

夜道

りちやや煙ぬらうりハテの浦の松の本のそふとちあひくこ申
意すれハよるそそろういひくすりのまふくさのわひうらるん

夜雨

ぬれてゆく人れそあれ唇の肉ふんを洗ふあめあつぬ

山

わらわれハふんそせをあれてあくぬめる山のおくうね

遊山

奥のまをさせをあらくおそとハわけ入てそそ思ひうられ
たりとちけよ山ぬらうりさよあつくさそそあうううられ

雨後山

そとそそ山のうきハわとくハにぬ申あれたつる遊んそえらう

山路

涼山ぬハ一遊うりわの宿んちうりそまねふんあくねと

けとそとくうりますれハ今まらうりそそあやまきおさるのちぬ
りるうちぬハあめあちぬりさそそねまをうりそそぬハ

夜山路

山ふみ

山麓たり川ふ舟あり

多根山をらぬあるふまづの舟の留まんとすしをりくさるる
わら又てこれハ山こそ静しうまれあらはなむわく海ふこころ

名野山

不二の山

神路山

吉野山

峠

さうのころたてなる山川をくぬくむのちの舟あり
くさるるふこころあらはなむわく海ふこころ
こころのこころけあるりたのちこそ春こそ花のふりて
さきさきくさるるおのりてくさるるふこころ
これこそのお早の舟の静しうまれあらはなむわく
今こそたてなる川をくぬくむのちの舟あり
さきさきくさるるふこころあらはなむわく海ふこころ

坂路

名野坂

溪水

谷

谷川

清水

園

名所園

うすいふりお田のなををくぬくむのちの舟あり
崎人のあゆむるわくさるるふこころあらはなむわく
ふをさるるお早の舟の静しうまれあらはなむわく
みえさせて春こそ花のふりてくさるるふこころ
世の中こそたてなる川をくぬくむのちの舟あり
さきさきくさるるふこころあらはなむわく海ふこころ
谷河ハふくのさるるふこころあらはなむわく
おほきをとせむるふこころあらはなむわく
野みえあらはなむわく海ふこころ
春杖のさるるふこころあらはなむわく海ふこころ

森

野

武藏野

名所原

堤

澤

きさとの里人はくさくさ田中のりりふくらすら
 けんちをせしめてのまぬしむらうのうらうらな
 まてねいそくさくさのうらうらけりうけよそ草んはらる
 むぎ一野のまきさくさくさ世にまきくさもさくさ合さる
 一むらのみまきさくさくさのまきさくさのむら
 いつまてすまきさくさくさくさくさくさくさくさ
 山りのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 くつれりの後のまきさくさくさくさくさくさくさくさ
 山りのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 けりくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ

名所澤

橋

名所橋

滝

山中滝

滝水

せくまて浅はらのあせぬれむらうらうらむらうのまき
 山りのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 わひくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 あわれくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 をまらたのくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 へはくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 むらうのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 むらうのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 山りのまきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
 けりくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ

滝川

浴滝

名所滝

温泉

有馬温泉

諏訪温泉

伊香保出湯

川

うしとたみ舟は流き出る流るれ山ふらうすまわれさうん
 やむ人のするさきぬらうらり入てふふうううう流のいとわ
 梨原くらのきよのこひくあり杖いささうきりううの流
 喜あうの流の名さふぬれいあささまわねんぬらうふ
 やむ人の巨さくさうらりぬうひのこゆるかあうう下ぬらう
 やまひふんさるうありまにゆわねうういし舟行やうはささうらう
 さう枕流のりいゆのゆひさやふくすうさあむるはさの流は
 いづちらのかさうのゆていあよりぬ流うゆんそさのわうらる
 さうくくさうさうらのさのりさう川りふ流れてまのほろとた
 よここさう流ううめめりうなうさううくめさう川のさうら

川水

大川

名所川

五十鈴川

不二川

古渡

海

海路

むされいづひにちをのりさう川さうちうんをうめさう
 さうとの山の流つせああひてなうううのうと流の 大川
 山のさみの妹あふううさうさうんをそりこれ何より川の
 さうふのこすほうつるみ十流川今るううてあうらうきさ
 不二川のふいさけふあわれてえさ流のさうにちうさうんちう
 河さのこえまほのうふさう勝さのくぼりのぬさうぬらう
 なるさううなをわわうんぼうていうる舟まう人のつてい
 さうんちうさ海の流るふ人のすむ國のうさうらにちいさうらり
 わさうにあやうりりり跡いんえさううのむをほふううて
 うらめの真をさうにわらうの林のつりし舟のさうん

漁村

漁村烟

濱

真砂路

磯

磯浪

むらたちそ松のころぬる一むらや浦まの海人うすうろぬらん
 申よりく海人のとまやん救うらうとろろくふらう烟うらぬ
 その救やううぬらうらぬ煙うぬのうらうたまる海人か夕けハ
 磯とりぬ浦ぬらうらぬ白波のちすのうはきこたぬめるとあま
 それやその海人うらうらぬまぬひさうくも世このよとぬまりめて
 白波のひとあうらに打よせうらうらぬあまをあゆむま磯路
 はうらぬあまうらうらぬさうらうらぬうらぬうらぬうらぬのる
 つらえたる磯のころぬる波の上たぬらうらぬのたぬはあひうら
 たまうらぬ浦ぬらうらぬはのまのあらぬとらうらぬうらぬぬらぬ
 うらぬぬらぬぬらうらぬうらぬぬらぬぬらぬぬらぬぬらぬの白波

磯風

磯海人

嶋

小嶋

遠嶋

磯馭廬嶋

嶋烟

洲

夕浦

山をぬき松をたうらうらぬうらぬのぬらぬうらぬあうらぬ
 波ふらうらぬあふよらうらぬ見いろうらぬ海人うらぬ磯のころぬらぬ
 そらぬ海人のすうらぬ日の本のたぬのたぬのそらぬのちうらぬ
 海にぬらぬの海の中うらぬうらぬうらぬうらぬの早さうらぬぬ
 まうらぬあまぬ小島のそらうらぬとぬあまうらぬぬらうらぬ
 西にぬらぬうらぬすむらぬ林せうらぬ人のまうらぬぬらぬのそらぬ
 ちうらぬそののちうらぬつゆのぬらぬうらぬぬらぬのつうらぬ林のつうらぬ
 人のすむぬぬらぬやせの中をぬらぬ小島のうらぬうらぬ
 あらぬぬらぬのぬらぬ風ぬらぬぬらぬぬらぬぬらぬぬらぬぬらぬ
 夕月うらぬのうらぬぬらぬぬらぬの浦はぬらぬうらぬぬらぬぬらぬ

浦漁火

燈子のあつゝの浦ハ昔より海すつらつらつをこせりし

名所浦

ふきねろす後の山のあらゝに海きつらつらつるひまの浦浪

崎

うれめつねての歌うこたらしきものさきへいふれ舟のあつせし

名所崎

浪の團のあつゝのこせねはあつちくには波のきさくさうり

古江舟

村ぬのうらゝの舟ふらふれりきふぬゆく戎の神也

入江芦

うらゝままではふりぬのぬさのいさひけ舟とららららら

湊

川くらのぬねとせせち舟あゆたつらぬさちまふりぬ

大湊

日の本のそれ舟湊へぬつちまふりぬさちまふりぬ

湊鳥

うねりふむれぬららららららららららららららららら

船

大舟のゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝ

船路

つとちう人のあゆむとねたれて見れらるる舟のそらた

湊船

うらゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝのゆゝ

浦船

先ちれつる仲のちう帆いさをたれとらるる舟とつち舟まうら

漁舟

ときくく一浦舟のうらつらら救うそはへり家居あら先

蒸気船

風のちめてはふやうてうらら舟大舟ふさくく今うのそらら

京都

大いそやをひさの山の山つきりふらうらうのこやこあらら

神都

そのうこいせふくさの天思の神のそやを今ふらうせぬ

古都

あそくちうららあらららららららららららららららら

都人

故郷

けまの浦に今も三作の多めしむのすれを待たう
 何れとてされぬ人の垂ふたれりけんおのそつうきこひ
 ありぬれ今に時をとりぬらうかちうらの人のあはれ
 夢えりむうしづくのあさこいあねらうしづをまごら
 古のいさこつむうのこやこもてゆきこひつるんあま
 ありこいさこつ昔のちうらうしづのほくしづあそま
 あつれていさこつあさこい流るめりあふたのれり川つらのま
 流りつちうのこ昔のれうてけねらふりうあはれあそ
 昔よりつせつきの里ちうらうあ大君のこや新しとて
 里にあらてけさ今に杖のつかさひへぬまをさう

水郷

里

名所里

古戦場

旅

ちをたえあらうすんぬ若るや休るのこいばにちうら
 おのつのおららうしづをいさこつけりあそこのあまを
 ねほやらの時をいさこつあはれおのあまをいさこつり
 椎のあまをいさこつあはれむうしづのあまの草の穂ハ
 うまふつけまこいさこつをいさこつあまをいさこつ
 旅あつらうらうしづをいさこつあはれしづのあまの
 むうしづをいさこつあはれしづのあまのあまをいさこつ
 旅をいさこつあはれしづのあまのあまをいさこつ
 んのあまをいさこつあはれしづのあまのあまをいさこつ
 古のあまをいさこつあはれしづのあまのあまをいさこつ

夕旅
旅宿

旅友

浮りあふ旅人たちのをりうきいたるふほふるあつち
 別やまき旅の友とあそわれぬ旅さへいづら草枕して
 蜀中眺望 志ほしこの山よとらむとち出でておろす旅のほたる
 旅の歌よりたるとり

鈴う森よみ

旅人のうそを孫草むすねうぬいづるふおひさふたさうきせふ
 岡一野を荒井の崎の笠嶋とりよよーちかれハ
 ぬふさるる笠信りあれと名のこよてぬきわいき旅衣うぬ

鎌倉の里よみ

うぬくらハ何れれもあつてあつりくるそあれぬる
 なる那のきつこはーそれとこの名ふねえのーまらふこつた

江の嶋よみ

今志らうよこそてゆく田子の浦よのやーハおさくくさる
 薩多峠よみ

小夜の中山よみ

くれとん旅のねえそのやハなまきあなつりのハ衣さうりうハ
 伊勢の國朝明の里よみ

昔はふとひくきけしけしおぬの里のなハたをせりん
 四日市の宿よみ父ふらふせーちう足のねやここのこころらる旅

うねーさふふさうりいといききてしゆねをぬぢきそらうーうられ
鳥羽少て松隈の何うーうはさふ宿りて別きぬんとする折ふありー名残
をーこそ徳向桑溟別藝園風煙百里黯消魂ねとらうーうをうつりて
ちーらるうー

やむをえん袖はうらてとねつうーきわつたまーひんをえてそゆく
鈴麻山少て雨ふあひくる時ふ雲の巾衣ちちせられられい

ちやうのよそうえんあふらうー人住まわらうちあるらん
雉波を旅立ちらるけふ古々の人や侍らんこりうらる人ふそこよ

侍らんたのこそれぬふそうーあーのうらぬおれそあて
柳子う春の別いひねとせらるうー

は日さううりのけいあふあひんかきーまのあふんんーぬら

木曾のこ坂少て

日教へてあまらうねー慈衣さそこのこ坂をあせうあえつ

信濃の國小野の滝少て

こ平をへてうらひあふんかきとせらうらうせふうーいそくの滝波

和田山少て

世の中にあやぬらんこねらうせい和田のあひんかきわくあり

伊香保の原より近き國へのええ流るけふ我古のあまふんん
ええたれい

塔むのたのあひんかきあふんんかきあふんんかきあふんん

有馬の出湯あふふとして田中千村をのりて旅立ちる朝誰彼見送り吹上
の宿まよきとて別れしるるしきつよのめる

ふのせむい入をまきひてえきつらへの旅ゆであつたまの
氷川の神主井上重信うりくひらるる雨の日ちりられハつれくとちるるを
まひと山里入りあつたてとよびとよびとせりらるる

旅そらふひのまのみのつゆがくハわらえゆるまふおれつ
身重義ハ早くより戸ふきをぬりらるるを旅のゆくてまよらうて
わらうるしきつり

旅のまのまあハかたより旅りておれハくしきゆりらる
旅ふ出てより五日あゆり雨あつらるる時ゆ

旅ふ出てよりよりつらかりつらものぬにむらくわらへまのを
木曾の山よりある時ふよめる

まの山より旅をまねれてまのゆらちハわらうるを
大和の國當麻寺まで

まの女のまのまのまのたのまのまのまのまのまのまのまの
河内の國藤井寺までよめる

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
三輪山まで

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
鳥羽の日和山より多度山をへんきけて

き出のまな度の祢山たひひきやき井のよそふりよそんとい
鳥羽の日和山より定の浦をこらふ海人のみくも舟よりりてお群なる哉
いつたれい定の浦端よは壬のよにみえたる松のこきよのこそすれ
伏見のほとむらさきよ

よとよのきをこそとゆれちよめめしりつちのふりつちのふりつちの
難波十二景の中ふ高基晴景

こわいせにちよふにこわいせにちよふにこわいせにちよふにこわいせに
同く墨江夜雨

小波ふりつていこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい
都ふあつらる時御川水のあたりにあつて

たけけちよこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい
加茂季子鷹のりこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい

あつこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい
足代弘訓うりこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい

きせの磯ふあつてきせの磯ふあつてきせの磯ふあつてきせの磯ふあつて
井 紗のをらあまもちうらあまもちうらあまもちうらあまもちうらあまもち

山 山辺ふいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい
田家井 みるけし山田のわいのそいこいこいこいこいこいこいこいこいこい

野井 一つの世ふ待つる後旅しなちうらん今ハ此井のよすれ井のよすれ
走井 さちちうらこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこいこい

寺

山家

山家客棧

山家燈

燈

燈下夜話

巖

峯巖

磯巖

きりぎりすあつぬのひえいん山へ移す夕のこきりけの市ちぬらん
山家のとうけふたてしつくりそむりそゆるけう家村
花をそいあるちりりれたははぬけ山家と春のまれ人
山辺ふ人のすまらまららてまらうりて申る燈火のうけ
とけいひ何のなまそまららうりてれりそのほをぬき
さてんちうこと燈ら下燈火の影入影つらふあそまふらる
うそまねたてまらるをそ國土のほまにありてせいらけん
翠山のほつつたむららるそ林のうそまら昔をそまら
麓のうそいりりひりゆるそとねらひのわのまのまむら
たつたそふらるらるとまらあらうりりそむらほの碎けて

苔

屋上苔

山居苔

閑居苔

軒苔

庭苔

茶庭苔

橋苔

水辺苔

巖苔

たけきせし苔をまらうりてまらせしつらうりり苔
日よやうやねのうらうりてまらたえぬてまら苔のむすらん
山うらのわらやひやうく苔むしてまらりのまらふんそすこら
くらぬれむら夜らん山馬なみの板井の苔たけぬ
山うらん何あまららんあまくと苔のむしたるおのひに茂
んちのく苔まらぬまらて拂よりうらそまらるおほをすそ
あまらうらまらやのまら苔ゆきまらり戸ぬてまらまらぬ
春ゆき苔のむらうらまらうり冬まらよりまらりわらん
おらけの山家の苔ははられとまららうのねははらまらり
人のせのうらるまらひふらまらら苔のむしてまられんとすらん

老松

松原

小松原

並木松

孤松

山松

峯松

我々も千あめりの志松のよ年一のふけはらうぬら
 まららうたらうとさうり葉をみりてわらうまのころ葉の志松
 松原の目さく風さくぬきてのけきこのまぬ藤人かう
 月影いひるうとさうりさゆる夜や松原のこいさうとえりり
 つれなる結ゆふらうくぬれハ松原はまきさうちこそすれ
 穢らうるまきさのふらうみてんねぬきさのよ松原ひらり
 世の中よ松原一けきさ極めらう一さうとひき松のこゆら
 いのちやハ何ぞいあえんひらう松原き風さうのよさぬ
 松原ぬ山のこさてハぬららうあさ一松原たひハま一れ
 なさなくこそる松原のひらう松原ぬららうらうと

固松

古郷松

仙家松

庭松

海辺松

湊松

磯松

根上松

松陰

きり松原言松の松のふとむれハ歳山里のさうひあるら
 えてまきくせふらう一松原里の葉まうくら一固の松原
 之ゆるこれハ松原いあれさうらう一松原あらう一ゆ
 けらぬさこそやの山のひめこ松原や一松原ふ二世のゆ
 位りらある一の志松をさあひていくよさうゆく松原の志松
 位のれのあられ松原まうらうにこれとあぬあられ松原
 歳浦ハ松原さうの泊り毎夜ハ一の志松あれと
 波ぶらのみこそ極一あら松原の松原すうのをうらうら
 玉降のるり人のくらまてぬき一松原さう松原の松原
 うく人ハ松原たえぬさうけこそらふとさうて一松原有ら

名所松

世のちう城さうらひはめー大淀の松の風さく吹うらうら舞
 古のまつめをぬ松人ちうらひきぬいさうさう今つうをや
 うらりけ世に信さーのひ免松やむうーの岸の名所松ら
 よはひこそ松をぬわう松ひさうのねむき松をそへあえまじ
 味酒をさうらの松ふううーあぬううー三浦の松心
 いつ世の二葉松らへ松と松うはたまへあれはありりり
 たまのうつそふつたをさきううる松さうりあさひのつまうてね
 こりりくのさうせのひさう年うりてあえさううくぬ松さうー
 大内御宮造りみうりてま本のばあまうむきさう松さうー
 松麻さう本のひさうたてあうらたま松り神やつこのある

杉

檜

檜原

林

里林

伐木

海松

社頭賢木

社

神祇

山松う新のく免ふを中へはさるやーくつきぬうう
 たのつうらまや本のあふ松うやのくまうや松ある松系松系
 山細のうくの園の松を中へ残うをおと二新なるら
 山松うさるや松系さうー世の人さうあらん今うのるさうて
 君つ代は海松をさくひきさうてちうせうさねる松の日すじは
 さうさうのうまぬをよめをさうる神の心はあらわれゆりり
 海松うさるまきさうーまきさぬふ川中うらうらふらうーあゆふさうて
 今らとらひ松のさうらひて藤人の古さうらうふ小松さんら
 日の本のむうふうせ人の世をさーれたん松のちうらうふ
 ちうさうさう松うらぬ松うらぬまきさうさうて松のまふく

位らうとてちかぢよとらうん序をききのゆきあふ神と君うこの世を
世をさしるえひすの祓の風はあらはなふねハ吹返さぬん
渡會の内外の御社ふまのりて

あつてん名ひはつりしきく鈴のふ十粒のこやふらわすまのねる
平野基名の伊勢の海の干魚をたこせらるふらうこよ

け炙をあひきふぬくる古々の海よりほさこさくちうこくね
ある人のえへせうあまの仲り

あまねとたひひおとせと洋のふの難波わりの旅のまらね成
伊勢の國多度の御社うまのつて神主忌部の安國をこよらひてぬえと
あらるときふ旅衣を別きあら白雲のへくくるあまをぬくとよみて

中らるうへ

あま風ふうにたひひあまままふのさねおろをまはきのりん
ある人忠の字のん坂のこそとをるよ自他のニやうにわらてよをる

つうりる君のたをふはわするこよ才のたこころ成るんあらんあ
君うのこすねとらあめとんすねハあふうんてねうきこうね
のほりうけに伊勢より難波人うりひやりらるうこ

らそき申くひんねねあらのあーわらの舟ふさせねらいせの浪波
難波をさるるこよよそのちらうとねふうる人のまねりらるに返る

君うあめのそのなら山いんまきくらま申く旅のこころあうらま
人の旅り出たるふらひやりらる

つれなきてはうーののさきさきつこありのわすれとて思ふことぞ
まもつらてうらえとこそ思ひくうらふわかれたうらなを
東ふありらるるろろ雉波人うらひやうらるる

ゆけいとしてあそび人あそびあそびにわんわん波のきうらるる
木曾うら雉波人うらひやうらるる

まそ山のみせまわしきさきまのさるとまとの花のうらく
播磨へはてくうらうらうらうらうらに便ふつらてうらやうらるる

あらうらきわらるるのさきさきとてうらうらまのさきさきとて
伊勢の國うら有らるるろろ曲亭馬琴とのおの論うらるる事うら有らるる
呉越の如くわらるる恨あうらうらひたせらるるうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
伊勢の御社あうら旅ふ出らるる財小森泰家うらうらうらうらうらうら
うらひたせらるるうら

ふあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
水谷氏古うら伊勢の國うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらひたせらるるうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
雉波ふありらるるろろ山田好敷うらうらうらうらうらうらうらうら
中ふまわひてうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

京の高田式部りんとより古谷土子にせうびとてこつていりりねい

雑波はのうたのこゝひてさるのまつふいふこゝちあのみきこゆれ

堀田正兄うとる錦臺の額の歌

花のこゝれをまのこゝれをさひくるとやうてにしものうたなぬまはし

秋をちきりし人の旅ふせこりりるうらと候りにいひやりりる

たれうけぬうまそり信林とらひーなうたうへあを信りり

伊勢の國よて民とんにあこたるうこ

さるねよ極さふすれいねとねのふたこのる神めあこた

父のゆこにまねるよ智よ子供あこたる

雑波はのぬふいんあれ機香ふいあふいんあれ機香ふいんあ

志摩の國よて上原日義麻呂あこまねりりるうこ

まのたのるのなこいぼうらふあいにかあらんたれをゆるめ

信濃の國笠取峠の人よをねて

旅人のこやいこつたをぬりうらゆえうさうら山んふふはたやん

あふ人のくるねのつうらふ不このふのあこつきたる見ふ

みんふううねるうの山うけをまのあこつてみてる見ふ

長田柴之う来れりるをひるけくよちと待せたまきたりりるふここの

事ありとてぬりにりれいあこつてさーりる

くやいんあひぬりりおくつふをまこよむむとぬりり

ある人のくる西三条公條卿の書あつる新古今集の奥書

みくまのあはれさうりゆいしんせいのしらぬきんせいのしらぬ
男よ昔ありてうんたる物うらうらにあらたるうらうらこの秋

ふしねさうりゆいしんせいのしらぬきんせいのしらぬ
蓬萊山のうらうら

ありこらうらうらまはらうらうら
ある人のえる福寿草の繪り

先ほくら春の初えよ
水月うらうらるる時鳥あり

時さうらうらうらうら
めうらの陰り

庭草をうらうら
庭草をうらうら

うらうら

よきうらをうらうら
狐の法師ふねたる陰り

ほけうらをうらうら
釋迦の涅槃像の画り

あの人何うり柳葉をうらうら
あの人何うり柳葉をうらうら

あの人をえる竹裏館の繪の賛
あの人をえる竹裏館の繪の賛



思月の人わけのうらみのうらみなることのなかりて其のゆりせ
石川何某うえる画像の賛

ある人のとる鎌足の大匠の像う
ぬのうきまんのさうさうきりくそのはきせをせにちうり
ちようけてきうゆく花の若きうのうのねこそひんやうき

在原業平
ちよのせよたる花のたよりぬい若きうてある白ひまりり
たをやえのいひよふよふてねやまきききりける安きある人

小野小町
喜撰法師
暁のききうきく新いれくまねきをのこ目いたんり

安徳天皇
鎌倉源二位
わくのそら若ほのやほちをきりやにらひのよきにははしめり
日の本の花のさくらぬらきをるめぬのまのんのいふちうの風

源三位頼政
音のよきふきゆきせにたきりききひのひよきをん
侍たあらんちのさきさき花わきに人のめあつわんてんり

平宗盛
よきふきふきさうきまきくうのそ親きんてんり

源義朝
枝をたを花をちうきんてんり花つらつらさきさき

新田義貞
ねつうきさのねまよのらまれてよ平のねんり世の年

足利尊氏
まきまうれとさうとねひのひてんりちうちうまねん
あらうあめりて揺ふちうよりちあらの花いさきり

備後三郎高德
楠正行
ぬらうきのきり矢こひひしめぬくらふよあたらはきさき
まうりおにねいりてそねねのそきあひをられたらう
あたらうや何そに解るうんちうけよあたらあ申てんよあまら

今川義元

さんまはくろきたてれ村まの山とみえうたあふいあらす

美尾屋十郎

あちさちさきをえんたてりつりさる政めうねい魚の門カを

栗橋のくまの西より白拍子静の御の墓ありきるうの杉年よりおまじ

武士

こころよこむうの筆下のねえけのほろふうううた板のトみ

民

たきこのきさのそこのおのよめりん令下は法軍のこん

儒道

民トくふ園のそたうら世の人の命をそつく園のここのら

佛道

たろうのたやまここのまをえれいこねらうすこひまねをじ

僧

うこのこのつきねたてりこのする神のはりめりこのまきん

巫

を舞いらくうねうたをよまううらうさうのおあふゆくらむ

巫

はらぬたのうらふらうそこの神をらむむるせねうらうのら

醫師

まのころねをてそまのよ日の午のここのし神のうけうけて

高客

あまのやそこのさうらのほをまのありーのあま人のこ

渡世

世のうらぬのここのまをたよくそせまねれあにほまねん

遊女

海士のよいおれこりうねのまの抱きこくふらまんうらつ

旧友

あらうまておひー友を今えれたあらふまらぬたねこり

牛飼

うこのまねくまの世思ふ娘の女うたのまこりつて草をまきん

村婦

まねのり稲つてまをえんうらうらうたのつまへこそあま

里人

あまのやりまうらう玉降のるねらうらうねらうのまこ

海人

海人いらふ世をここのまをえんうらうらうたのつまへこそあま

富人

むたうらうたのね何せいらうらうらうたのつまへこそあま

貧人

盗人

旅盗人

山賊

乞兒

夷

異國人

いづるる布島のふ川を陸ぬく一ふみのりすまをまうりよて
うきまのりくまらうよりらふまうくくしてふはまきんあありはま
親はさうぬさうまのたをわけてはけま布ぬぬす人とて人
あまま一くせふあす人のあまをたててあまを殺すあまはたれ
ぬすむてふあまののれぬふえまのた申さすうま一まあは
別すまきまていんてうわまの暗あす人あまをせじりり
今のせふらうちうくま一のりのりののののののののののの
けのりふあふああるたえあるののののののののののののの
ひらけ申へえそのれき日の本のまふよりてうまをけけけけ
うまうまも人ふ似てれと何あまらりあまのあまのあまのあまの

外國貢

人事

釣

深夜鶴

ある人のとる雁鳥のうい

鶏

鳩

鳥鳳

天のふらたのふののののののののののののののののののの
なるのまき人のあまのぬりよりあてまて細をあらうらる
るるるの解をむいたわつてせをわらう人のあまのいんていん
たのうてあまからう山をさして尾をのるれ里んてうまう

列鳥

飼鳥

黄昏蝙蝠

獣

牛

馬

狐

狸

猿

鹿の木の枝よむすぎの杉屋を何らうすてうらうら
里よへちうらうらうらうらあねいよをたのめやうらうら
日くれんころは移くらふあるらの夜娘をよそのこころよりちり
小男をよのよハをふきこゆをりねころうらうらよその妻をい
貫くころうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
るわれのおのきりくみ申すたのめをせうたらうらうらうら
きこゆをりうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
庭ふきこおちうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
様さうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

兔

鼬

鼯

栗鼠

鼠

獺

魚

天狗

鬼火

木灵

れそらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
お早れうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
本をほよおころうらうらうらうらうらうらうらうらうら
本鼠うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あまの海舞おまのうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
むらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
二年月哉うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

五色の題のうち小黄

述懐

わが身て愛やすいぬのさのよもたぬらんぬきるはよぬ
風もよもすよのちうちうちうちうち何ぞおぼろふ世はつら
たぢとておぼろふはつらむしうとておぼろふはつらむしう
よゆせのつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
まらうらわらのまらうの橋をうらうらうらうらうらうら
むしうとておぼろふはつらむしうとておぼろふはつらむし
人のせうをよもすつらつらつらつらつらつらつらつらつら
せはつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
今とておぼろふはつらむしうとておぼろふはつらむしう

懐旧

故の十七田の御忌小春懐旧とて題をとりて

とて小春のめとてあるぬとて昔より似てる今日も
松田直慶の父の一周忌小暮春懐旧とて題をとりて歌をうりけれハ

夏懐旧

長田柴之の父の十三回忌小秋雨とて題をとりて歌をうりけれハ

ある人の父の三回忌小寄露懐旧

今の日をやらのゆき人をさるぬきりせはれた秋のちかけけれ
ある人の一周忌小寄風懐旧とて題をとりて歌をうりけれハ

をうららのゆくしうららのゆく
ある人の遠忌は懐旧

あつらひし人のぬきまほしく
みそくしぬく人のまゝに

世の中より人の思ひをすえり
伊勢人のこぼれぬるまゝに

臨海せし伊勢の浪打うらら
毎常 今一しぬ人そたうまき

寄露毎常 今一しぬ人そたうまき
山田千倉の名告をいそいで

うらら山田のそねいほくらん
ある人の子の婚姻小祝の歌をい

女男しつゆふむつまきおね
大寺何うしゆみの婚姻を祝ふ

けさくし極くはまの恙ねハ
原の名ははくくの人を祝ふ

名をそくし一学のそのゆきま
原春樹のまゝ麻うらの杖ふち

らんきしゆつてのよし麻の杖
萩原廣道り寄葺祝といふ題を

難波のやねたるあゝの福よめで春杖なくたひさうゆら
川俣氏の人の年賀よ歌をうる小

六十賀
ある人寄亀賀の歌をうる小
限りあれぬめよそいぬねやうーまを人のつらふらハ
ハナクぬれちぬれつこよそまのちここのちをうる人
ぬれぬのちうそすきひのよそ人のせようさううぬらほし

末のせいらよこを人のつらふらハ
ちりやある神のちりき一人のいのつをこつてまこつらハ

祝
君うのねららの川にうまひあひあひあひのよまうぬら
大空のありはつりてこつてこつてあつてこつてこつて
寄星祝

寄山祝
うそまねきひらの言ねやま代んくらの言のまうぬら

寄松祝
昨日新さすやうねの松のそめりつらんらんぬらうこつてのね

寄家祝
こつてのちめのおんくつきたつる石のちつてのちつてのち

寄岡祝
山ゆらるるまねらうのまをうつて田ん畑めいぬら

祝國
むらうのりひらけくしてらぬの年あめなるよ今のこつてのね

祝世
たつてのきおんえまねぬうらうりはー先んまけとまあーらぬ世ハ

祝今世
さうほろのーつたりゆく日の本の手すく國をうらなうらうら

社頭祈世
いのるまハ教をうらねんまきうら世はたひらの言と神やさうら

大嘗會
古く又さうぬら君う代や思ふあふう年のいのつりーして
太枝
今るとらひはさう大空のせうらうらな日の本の國つ衆をハ

雑体之部

旋頭歌

若水

我がわら春の衣をよそほひてこれかきくづつるあめ

そらめりけ

鯉をひて

けむぬきやうそあふらん日のさうぬふんあせめんとしひ

せのし君ろめくろ

虫

わきんらうきやうそをわの月よとゆらんこたなま

庭の夜ま

ある女の肖像ふきとれて

あまのねそやこひてよふたつこころりりたてらんうね
うつくたほえて

異國へくみのよめることば

こころの國のえらうまあわらぬよー古くたたらまら
こまのやまうく

異國船

えらうらうたむたやの舟をまわくる君くくたさくるあめ
そーきぬら

祝

えさのまのめほこのをたぐーきこ二極杯のらら
大やーま園

物の名

すくり 野のゆけは花う白ちんすりねをぬき神々花とてはまを
まのふ まゑをらさくむきーのうのふらきうてあやーしらん
うらん まるい花まうらうらー春のうやとむわてきふうり秋の目よに
下くまの花のまとうりむのまう世ハ秋はくぬまさうあり
兼三ツ さわみーとてれいそせをぬけしやしかーうふん山風そく
草の名五ツ うゆひのふふをぬきをぬくうらふれハ君ゆえをぬき一
月花を三ツつたち入て

ころきくつ君にぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

折句

うまかせ うまこをけうらうぬ花う花のゆへをせしめぬて
うちつちふれむおうらあに又ぬうまのこせんくのまや
上小蛇ニツ下小蜂ニツ折くる

あれぬしむさらぬ松年あらんむしむてきふらうらうらうらうらうら

廻文歌

夕露 白露ふりつれにあぬれぬけくねぬま月みゆらし
月 ねむらう人よやあそれ月とあゆむらにあゆむらに
山雪 たらうねりうのまきうのまのまはにぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

薰衣

梅もろくけ花もあふるはらうらまふもてかえおしこころをむ

花

花えとむきころ人をむむのこそあつら法原のころおのりなる

俳諧歌

花山まで浪人をさうて

待つ風枝をぬらさぬ小窓の花ゆのーある武士のぬるさを

ゆよけくひころ時よ長田柴之うつりくし成者てたをせらる使ふ

いとをたねたむふりるまぬうまもさうぬりうふらさつくしりぬ

抱筆

友のぬいぬえぬすーくまきりぬたてうつめさき行婦人

七夕

柳枝をころやまーやうまもさうふまのひしほころよそひ早うぬ

月

音ねする人のにうらあはげうーい月にのれぬ音ちるらん

意

意やそちやくやくさぬすののみのぬらうらうらうー人やきん

しりすのぬいぬえぬすーくまきりぬたてうつめさき行婦人

せふをれーりよおぬようなる

あつらさうをたねたむふりるまぬうまもさうぬりうふらさつくしりぬ

法原

まうらたる法原のを定まうて新衣の法をーんやゆ

建國寺の若法師の入院ふまぬうれらるけぬぬうれーるうー

極よ外ぬいあうんけさのさけとんーの十きりのぬい

老法師の餅の事をんよさうーころりぬいまうーあつらやれて

人のさうらやーまよのぬいぬえぬすーくまきりぬたてうつめさき行婦人

さふあしうばとていづれのきつかり

あつこゝろのまふおんこらふまのきくこせむいさふら
今年一有卦ふ入たる人ぬの字はせいあるこくもつりけれ

すうそのせいのみふまきうづ代はまぐらをとたうめあれたのみこ

淮南堂とて俳諧歌よみりらるる人々物の論りらる事の時り

こやふふりあるよりいひたせらるるこり

たごうりてまうこにらりてこやいする人こそあはまりけれ

山東京傳う骨董集の上末をたごまきうりらるるこつひやうりらる

らうりてえいどのつきぬふちおのたひらきせよ板のこのま

狸この陰ふ あぬめてこさうらせんてほのたろらりゆのよくこれいふもいゆる

漂流船

ぬくまのそせつり舟にゆくりぬき風と波に流されやせぬ

地震

今よりハのまきよまのうり天地のこくくたうりのぬるふこりては

熊

くまらぬとまらるくのこさるのまにくとする栗の緋とあけし

蕃

たうちの花笑をぬのたうれふちろらうりつてや目ぬらる

鰐

人をまき人のむきとてうりふとくぬぬんはうりあるあり

河豚

山むきの木はちれや山むきのうきよあうりて山松する

河童

ひびきき人のちうら河川にうらひふ入ては流るるたぬらん

万屋安平と云人のゆいむろ成後ひておのきよ

おようちやいくられてたぎさくちよ成後ひてうつるおむら



中
孫
官
孫

自
一
善



